

< 靈芝天然原木栽培過程 >

御恵赤靈芝は、日本で有名な栽培者の一人である黛家によって、その商品を生産するに至りました。黛家は、赤靈芝の栽培に於いて、厳密で独特の栽培方法により、日本で名前が知れ渡っており、過去の経験と技術と共に、30年の靈芝栽培の歴史があります。



赤靈芝の栽培は、まず縦15cm×直径25cmにカットされたクヌギ・ナラの原木に、優れた菌を植え付け、それを培養室で数ヶ月間培養します。



十分に培養された原木を、環境の要因を厳密に調節されたハウスの土の中に植え込みます。



おが屑を撒いて、原木を覆います。



ハウスの中はホースで水を供給できるように準備されており、温度は30℃、湿度は95%に保たれています。また、直射日光を避け、十分に風通しをよくしてあります。



靈芝が次第に生長し、芽を出し始めているので、雑草が生えても虫がいても農薬は一切使用しません。





生長の最終の過程で、靈芝の傘の裏側から胞子が空気中に飛び始め、傘の上に赤茶色の胞子が積もります。



胞子をつける条件に於いて、まず、今まで靈芝に直接与えていた水を止め、今度はハウスの両脇に水を流し、湿度を保つことを約2週間行います。なぜ胞子をつけるのかというと、胞子も靈芝の本体同様に栄養分が含まれているからです。





最適な収穫の時期は、胞子が傘の上に積もった状態の時です。